

2020年6月28日
聖霊降臨節第5主日

家庭礼拝のための
聖書・牧会祈禱・メッセージ



【 聖 書 】

ローマの信徒への手紙 15章 14節～21節 (新約聖書 295頁)

【牧会祈禱】

命の源である神様

今日から一週間、主の証人として生きることができるよう、今、わたしたちに御言葉を聞かせてください。賛美を歌わせてください。あなたに造られた者としての祝福の姿をどうか思い出させてください。

わたしたちはこの世界のために祈るつとめが与えられています。新型コロナウイルスによって苦しんでいる全ての人を救ってください。新しい脅威は、人の罪を露わにし、私たちに悔い改めること、考えることを迫ってきています。私たちの中にはいつも利己心や傲慢さがひそんでいます。気づかないうちに、神様を忘れていきます。イエス様が私のために十字架にかかってくださったのですから、罪の習慣を捨て、適切な謙虚さ、感謝を身に付けさせてください。また隣人と自分を比べること、隣人を抑圧したりされたりすることから解放してください。自宅で療養している友たちがいます。回復のためには時間が必要で、焦ることもあるかもしれませんが、神様が絶えず傍にいてください。家庭を教会として礼拝を守っている友たちに祝福がありますように。様々な事情で礼拝から離れている友たちがいますし、私たちの気づいていないところで苦しみを抱えている友たちがいるでしょう。私たちがどう手を差し伸べていいかわからないときにも、神様は働いてくださるはずで、どうか助けてください。

軽井沢幼稚園の働きをお支えください。あなたの名によって建てられた幼稚園、こども園、学校、施設がこの地にはあります。そこで働く人々が今週も愛の業をなすことができますように。

このお祈りを主イエス・キリストのお名前を通して御前におささげいたします。

アーメン。

【メッセージ】

パウロは今日の聖書の冒頭で、まだ見ぬローマの人々のことを褒めています。これは、ご機嫌を取るためのおべっかではありません。原文ですと、「私は確信しています！」という言葉が最初に来ていて、力のこもった表現になっています。パウロはこれまでに

2度「確信している」と書いたことがありますが、それは両方とも神様の愛の深さや救いの確かさを語っているときでした。3度目にして初めて、パウロは「確信している」という言葉を人に対して使うのです。神様に対する確信よりも、人に対する確信の方がもっと

難しいのではないのでしょうか。

ローマの信徒への手紙を読むと、この教会には人種による差別があり、身分の違いによる差別があり、互いの才能や働きの度合いによって小競り合いのようなものがあつたことが分かります。とても善意や知識に満ちて、互いを訓戒する関係には思えません。そのような人々の姿は罪の表れです。私たちのどうしようもない愚かさ、醜さが、私たちが築く関係性の中にもうごめいています。

しかしパウロは良い意味で人を見ていません。そこに働かれる神様の姿を見ているのです。神様が人の悲惨さのために、独り子を差し出してくださった。自分が、というよりも、罪が主導権を持って私たちを振り回すような時にも、神様が「本当の所有者は罪ではなく、わたしだ」「わたしの子の命でもって、あなたを買い取った」とおっしゃってくださっている。パウロはそこを信頼すると言っているのです。人の善意や知識、良好な人間関係を確信するのは、神様が私たちを説得しておられるからです。人との関係に疲れても、期待や信頼を裏切られたとしても、神様は「あなたが見るべきなのは、表面に現れしまうこの人の罪はない。この罪さえ私が赦したという事実だ」と説得してください。それが、私たちと人との関係の原点になるのです。

これらを書いたのは、恵によるとパウロは言います。パウロにとって恵とは、異邦人のためにキリスト・イエスに仕える者となり、祭司の役を務めることです。祭司とは、ユダヤ教の礼拝で、神様に献げものをする役目を持っていました。異邦人伝道という働きは人を神様のもとに連れていくことだとパウロは言います。伝道の目的は、人の欠点を矯正するとか、何か役に立つ状態にすることではありません。神様との関係に連

れ出すことです。その人が神様を知ること、神様の方でもその人のことを知っているのだと気づいてもらうこと。いえ、信仰を持っていたとしても、私たちは揺らぎます。神様の真実が届かないほど深く潜ってってしまうこともあります。そんな人を神様との関係に再び連れ出すこと。それが伝道です。そうであれば、伝道とはキリストによって人が生きるために、キリストが人を用いられることを言うのでしょうか。

私たちのつとめは、最大限の結果を出すために効率よく働くことではありません。パウロだって、エルサレムからイリリコン州まで巡ったと書いていますから、当時の東の果てから西の果てまで移動したことになります。しかも「キリストの名がまだ知られていない所で福音を告げ知らせよう」とありますので、教会のないところに教会をつくろうとしていたのです。しかし、私たちのつとめは、たったひとつでいいから御言葉を信じて、この口や手足を、心や魂をイエス・キリストに差し出すことなのです。

パウロはローマの教会の人々に対して確信を持ち、大切にしました。なぜなら、キリストが彼らを通してご自身を示されるからです。それは私たちにも言えます。あなた自身がなぜ大事か。それはあなたが何かをしたからではなく、キリストにとってあなたが宝だからです。パウロは言います。「そこで、わたしは、神のために働くことをキリスト・イエスによって誇りに思っています」。キリスト・イエスによってとは、キリスト・イエスとひとつになってとも訳せる言葉です。

私たちの働きが有限で、どんなに微力であっても、キリストの働きは永遠なのです。そして、私たちはその働きをキリストとひとつになって、喜ばせていただけるのです。